

新アリーナに関するアンケート調査の結果について

2026年3月12日（木）に開催したシンポジウム（テーマ：新アリーナが広島未来を創造する～ひろしまで楽しみ、働き、暮らす～）において、参加者へアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめました。

2026年4月28日

一般社団法人広島イベント事業振興協会

参加者アンケートまとめ

実施日：2026年3月12日（木）

実施場所：シンポジウム会場（広島国際会議場 地下2階 ヒマワリ）

実施方法：紙アンケート

有効回答：207人（シンポジウム参加者 約300人）

アンケート内容

質問1：性別 ①男性 ②女性 ③答えたくない

質問2：年代 ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代以上 ⑨答えたくない

質問3：お住いの場所はどちらですか。

①広島市内 ②広島県内(広島市除く) ③中国地方(広島県内除く) ④四国地方

⑤北海道地方 ⑥東北地方 ⑦関東地方 ⑧中部地方 ⑨近畿地方 ⑩九州・沖縄地方

⑪その他（ ）

質問4：本日のシンポジウムの参加に当たり、質問3のお住いの場所から会場までの主要な交通手段は何ですか。

①路面電車 ②バス ③JR在来線 ④JR新幹線 ⑤飛行機 ⑥タクシー ⑦自家用車

⑧自動二輪・バイク ⑨自転車 ⑩徒歩 ⑪その他（ ）

質問5：1年間にどのくらいコンサートに行きますか。

①1～3回 ②4～6回 ③7回～10回 ④11回以上 ⑤その他（ ）

質問6：コンサートやイベントの開催前や終了後、飲食やショッピングに行くことがありますか。

①必ず行く ②時々行く ③ほとんど行かない ④行かない ⑤その他（ ）

質問7：お住いの場所以外で開催されるコンサートやイベントに参加した際に、現地で観光をされますか。

①必ずする ②時々する ③ほとんどしない ④しない ⑤その他（ ）

質問8：コンサートの広島飛ばし解消のために、新アリーナは必要と思いますか。

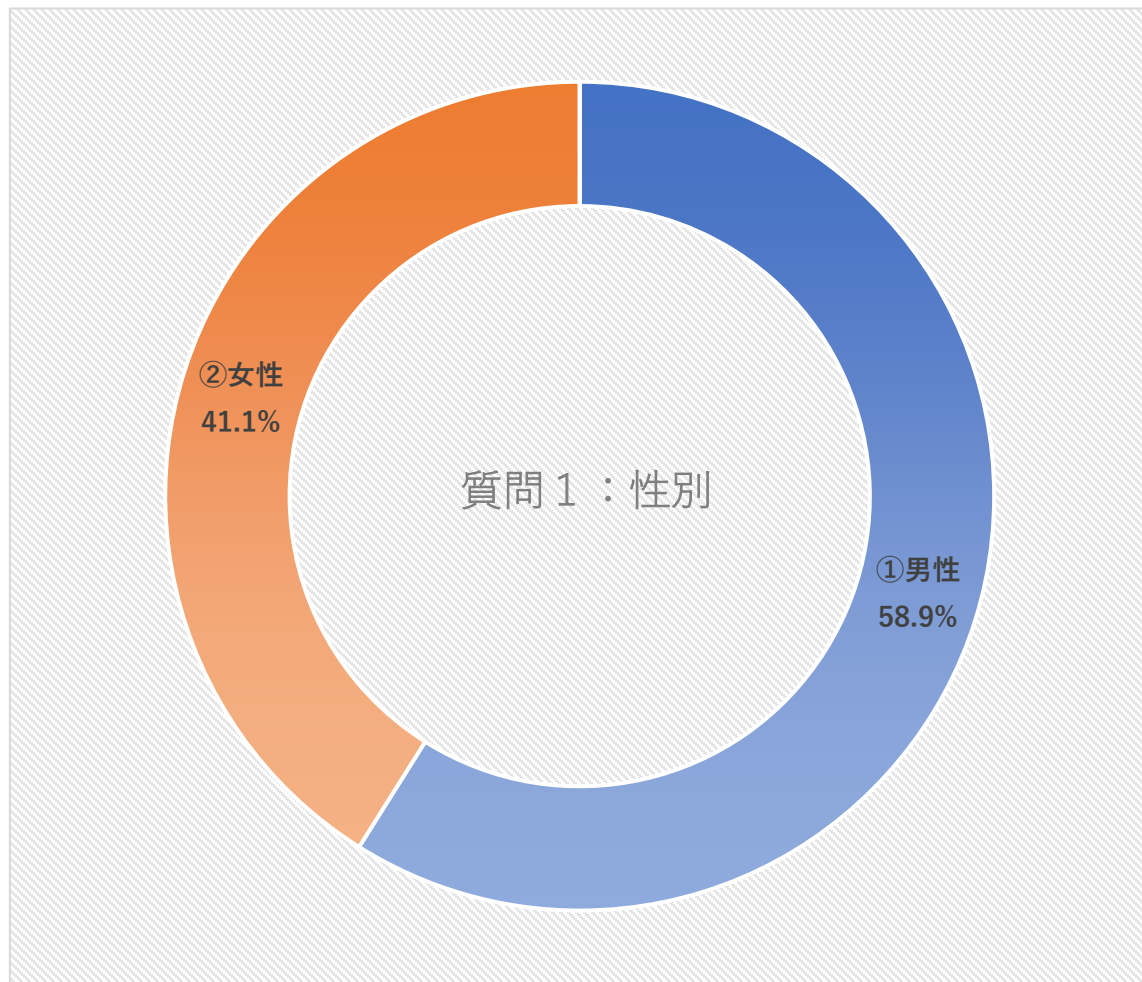
①必要である ②どちらかといえば必要である ③どちらかといえば必要ではない

④必要ではない ⑤わからない

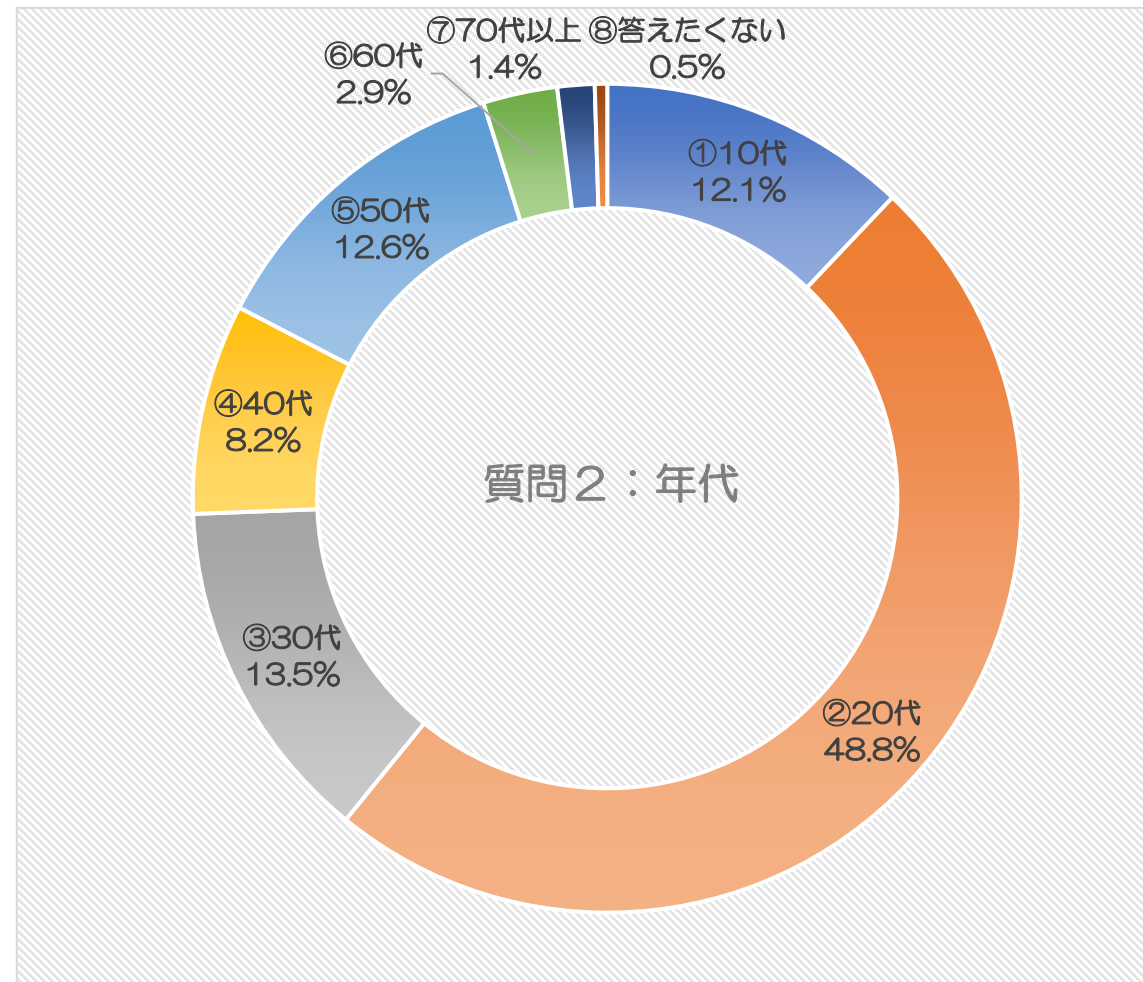
質問9：新アリーナができるとしたら、どのようなアリーナがいいですか。ご自由にご記載ください。

質問10：その他ご意見がありましたら、ご自由にご記載ください。

参加者アンケートまとめ

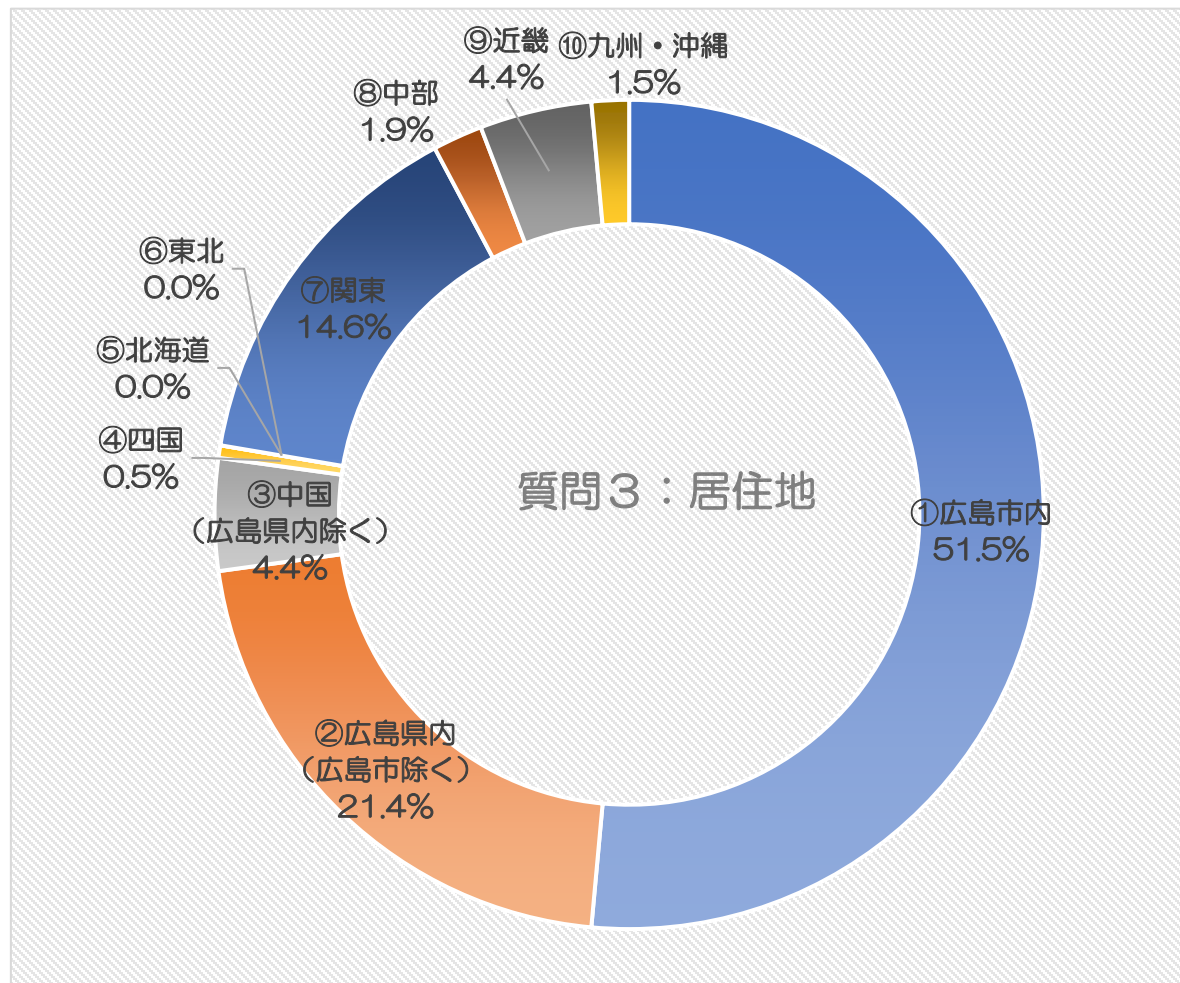


参加者の男女構成は、男性が約59%、女性が約41%であり、男性が多かった。

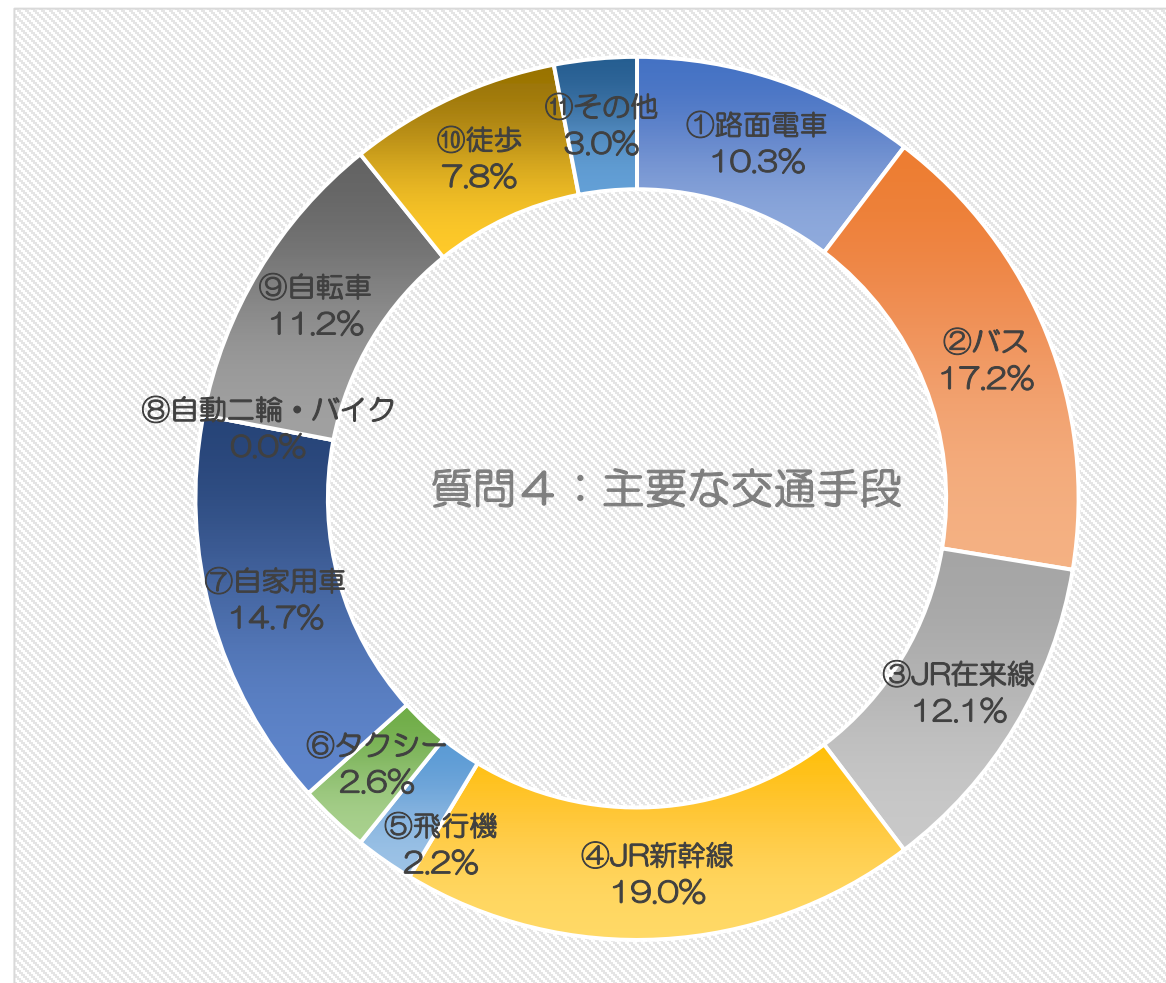


本シンポジウムは、若者の人口流出が多いという広島の社会課題への対応の視点を加え、若者へ訴求する内容とした。参加者は、20代が約49%と一番多く、10代～30代で約74%となり、企画意図を反映した年齢構成となった。

参加者アンケートまとめ

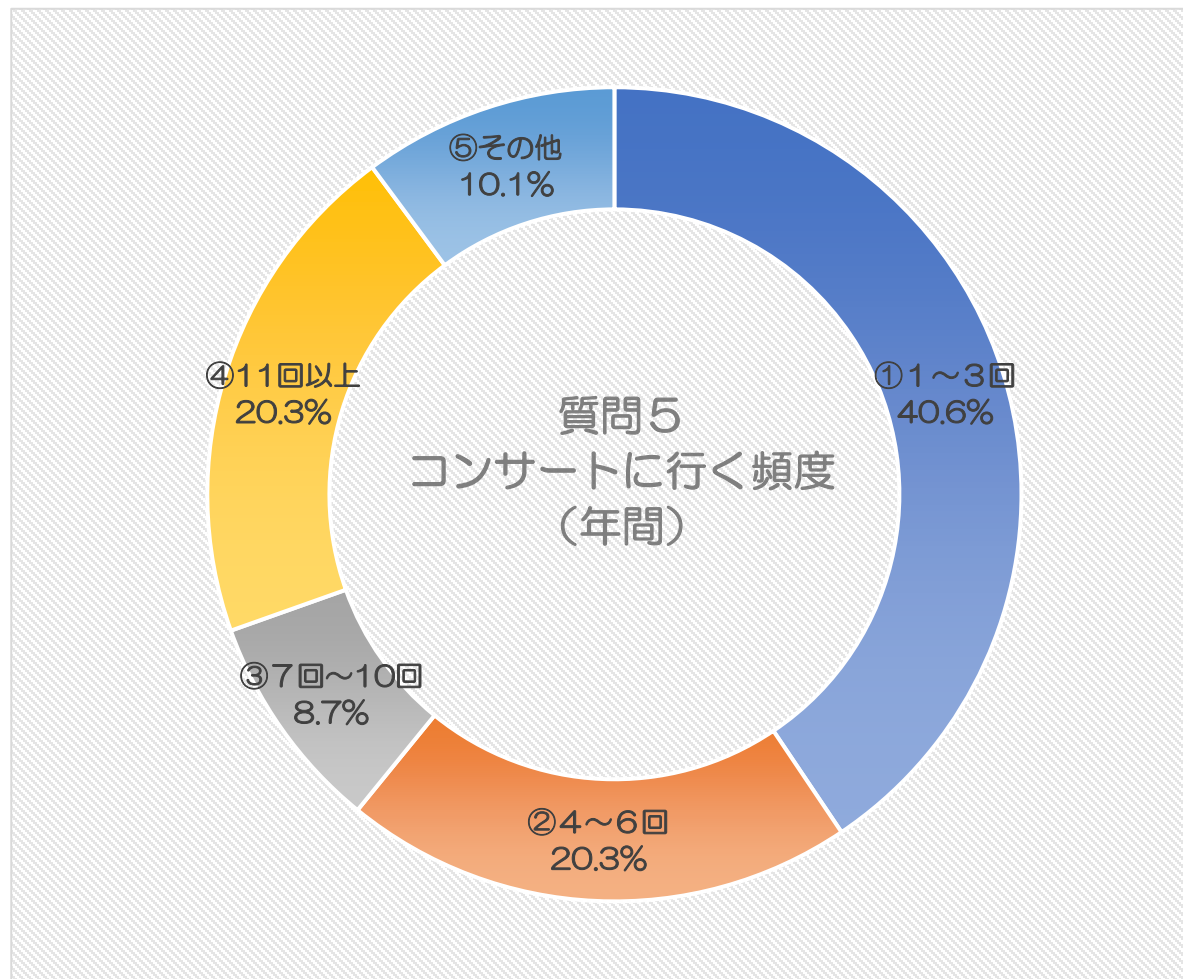


参加者の居住地は、広島市内が約52%で一番多く、次いで広島県内（広島市除く）が約21%、広島県内が約73%であった。広島県以外では、関東地方が約15%と一番多く、次いで近畿地方・中国地方（広島県内除く）であり、「推し」のイベントには遠方からでも来訪することが分かった。

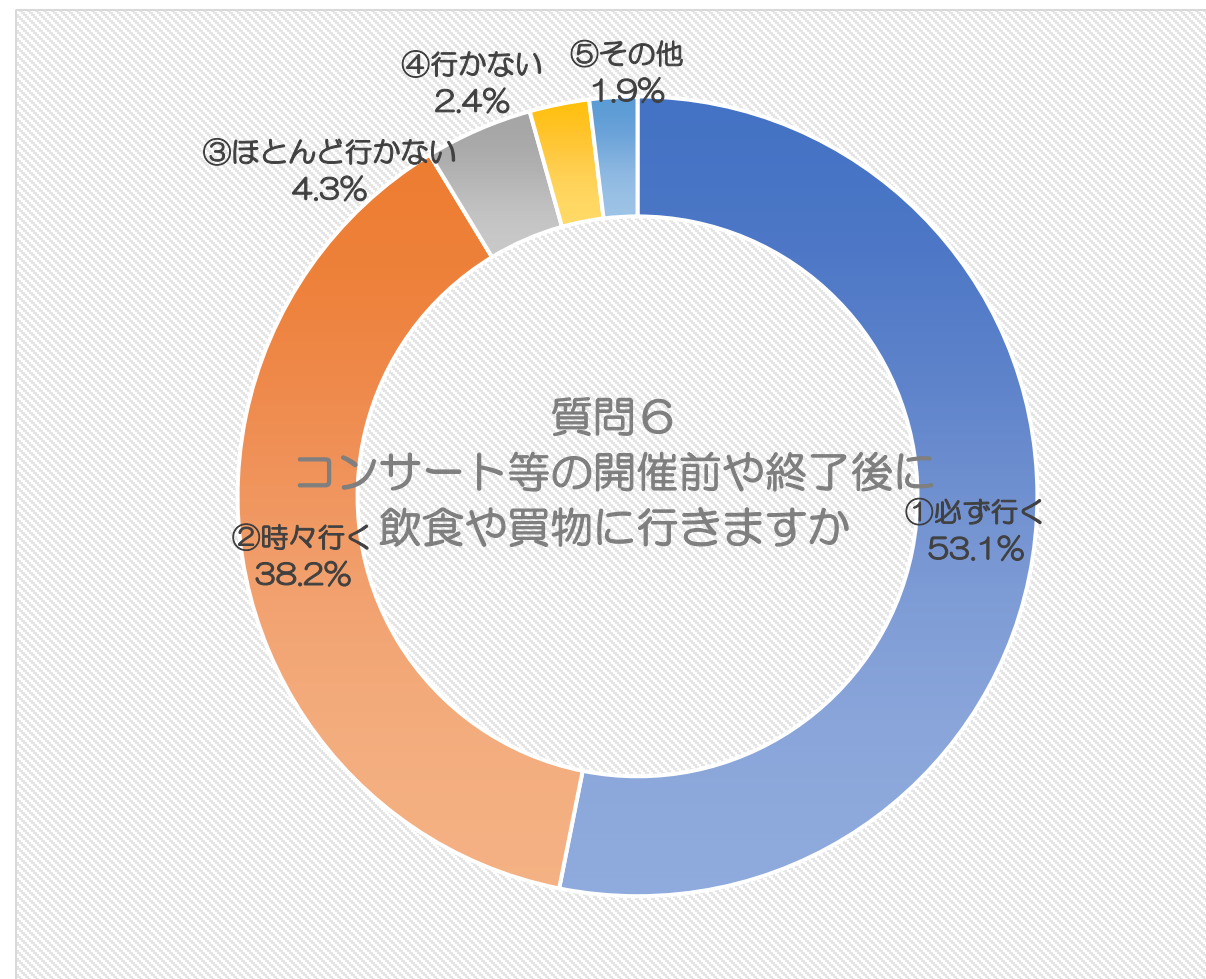


主要な交通手段は、JR新幹線が19%と一番多く、次いでバス約17%、自家用車約15%、JR在来線12%と続き、若者の参加が多かったせいか、公共交通機関の利用が多かった。

参加者アンケートまとめ

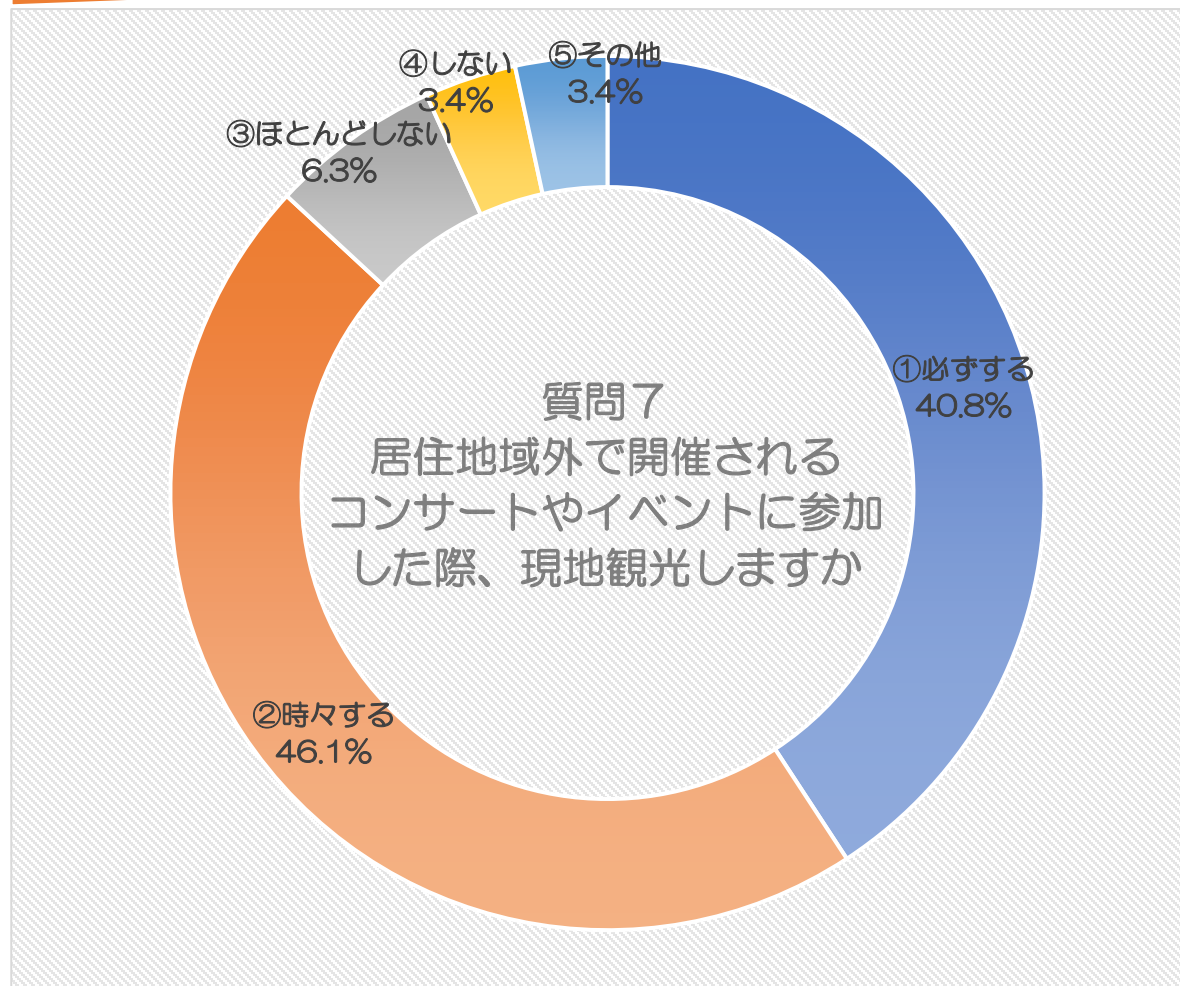


年間でコンサートに行く回数は、「1~3回」が約41%と一番多く、次いで、「4~6回」及び「11回以上」であった。11回以上行くというコンサートのコアファンが約2割いることも分かった。

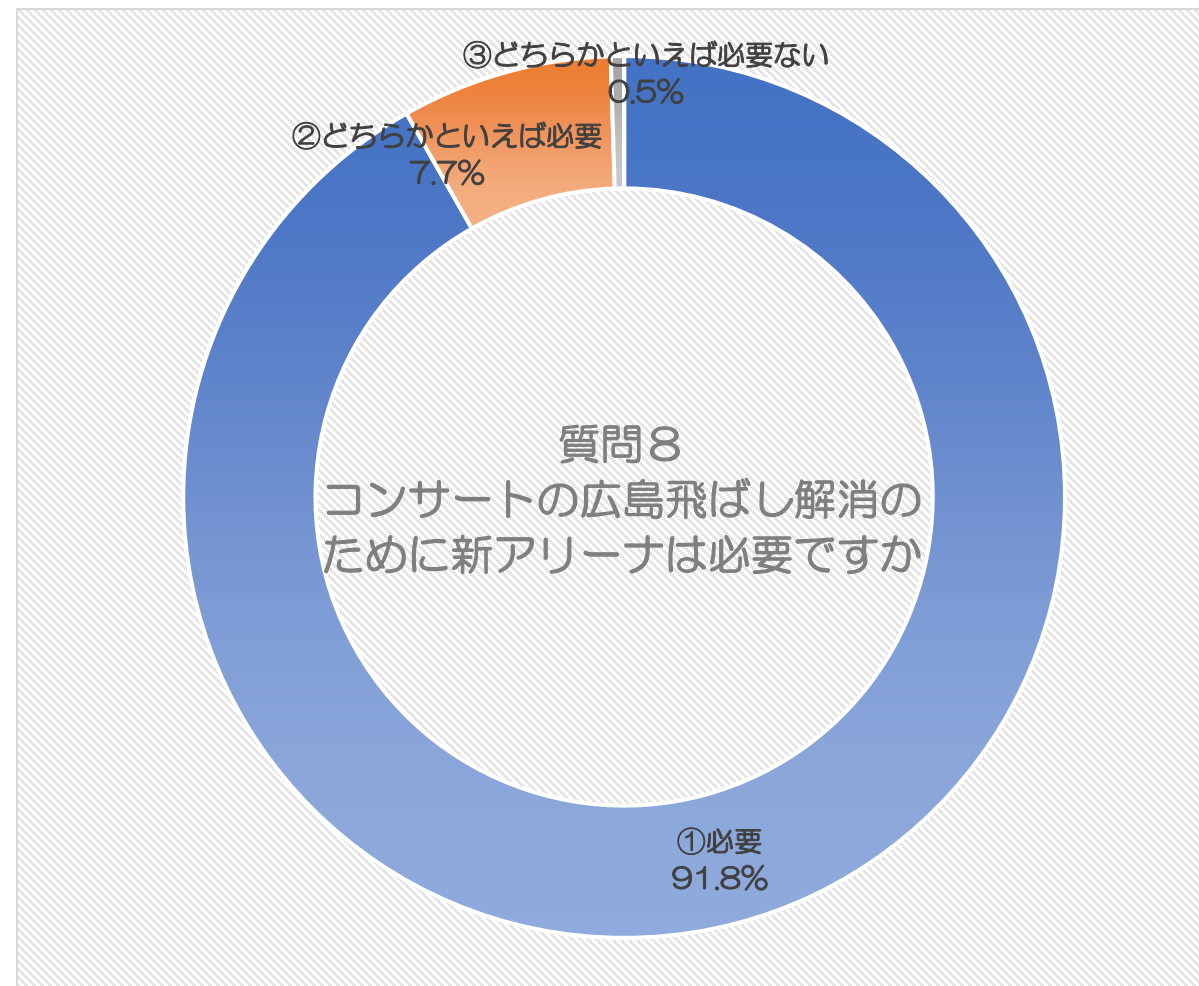


コンサート等の開催前や終了後の行動について、「①飲食や買物に必ず行く」が約53%と一番多く、次いで「②時々行く」が約38%であった。①と②を合わせると約9割の人が飲食や買物といった行動をしており、コンサート等の開催により、地域への経済波及効果があることが分かった。

参加者アンケートまとめ



居住地域外のコンサートやイベントに参加した際の現地観光について、「②時々する」が約46%と一番多く、次いで、「①必ずする」が約41%であった。コンサート等で居住地域外へ出かけた際、観光という行動に結び付きやすいということが分かった。



コンサートの広島飛ばし解消のため、「①新アリーナは必要」が91.8%と高く、「②どちらかといえば必要」が7.7%、①と②でほぼ100%という結果で、③は実数で1人であった。本シンポジウムは、新アリーナの実現に向けた機運醸成が目的であり、アリーナの必要性に対する参加者の意識が高いことが分かる。

参加者アンケートまとめ

質問9：どのようなアリーナがいいですか（自由記述）

主な意見

【アクセス・立地】

「広島駅から近い」「直通バス運行」
「空港からのアクセスが良い」

【施設内容】

「多目的・スポーツ」「コンサート優先」「会議」
「公演がない日も行きたくなる」「365日稼働」
「平和の発信」「広島文化を伝える」

【観戦・鑑賞環境】

「どの席からも見やすい」「大型ビジョン」
「快適な座席スペース」「多様な席種」
「客席とステージの近さ」

【規模】

「1万人以上」「広島らしくそれほど多くない規模」
「大きなアリーナ」

【動線・混雑対策】

「入退場がスムーズ」「濡れない動線」

【デザイン・外観】

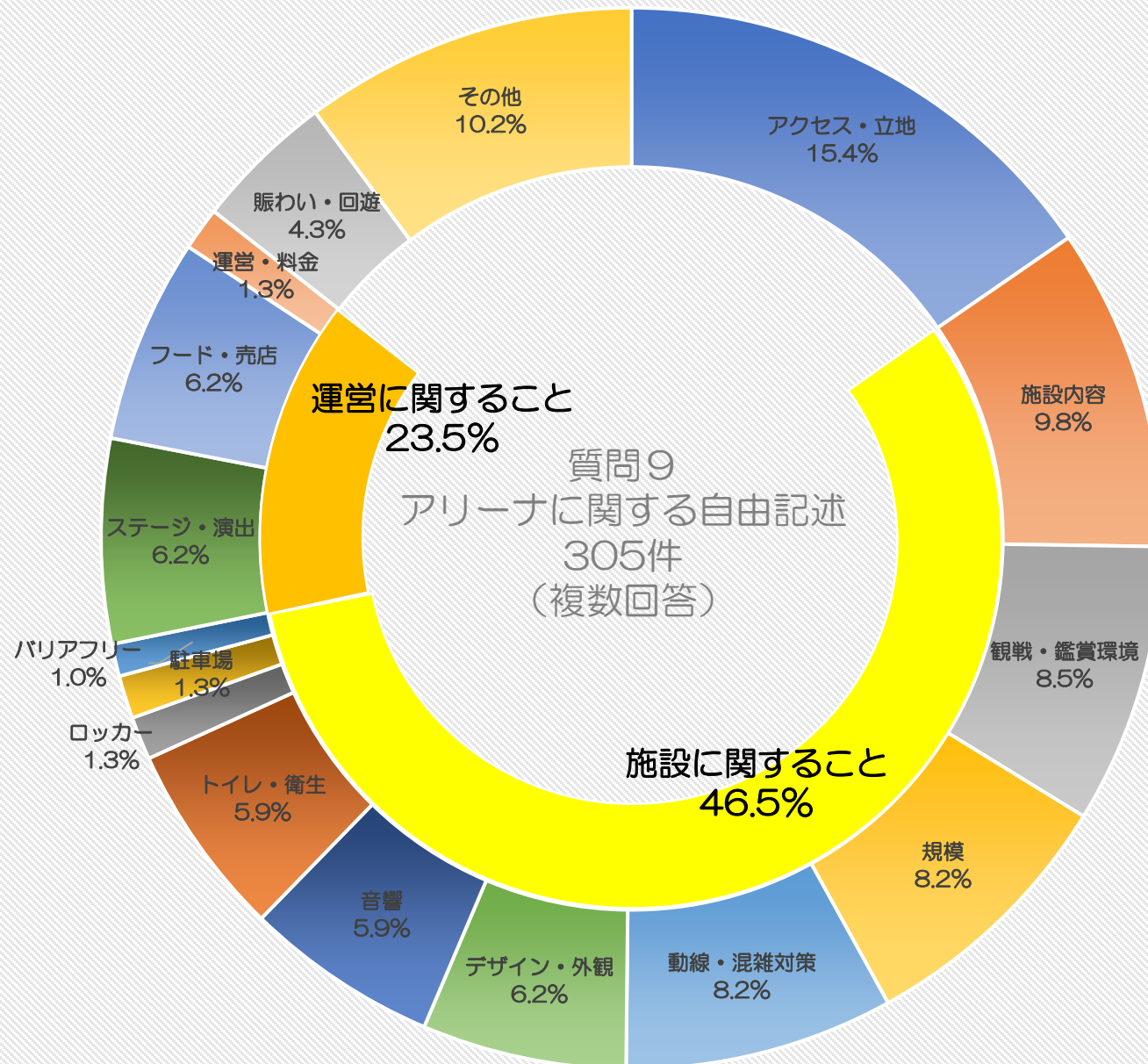
「広島らしい外観」「まちのシンボル」

【音響】

「音の響きが良い」「上層階でも明瞭な音響」

【トイレ】

「トイレの待ち時間が少ない」「女性トイレ多め」



「どのようなアリーナがいいですか」の自由記述305件（複数回答）において、アクセス・立地が約15.4%と一番多く、それ以外は「施設」と「運営」に大別できる。施設に関することは約47%（施設内容、観戦・鑑賞環境、規模、動線、デザイン、音響、トイレ等）、運営に関することは約24%（ステージ演出、売店等）で、商業施設併設など賑わい・回遊を求める意見もあった。

参加者アンケートまとめ

質問10：その他意見（自由記述）

主な意見

【応援・期待】

「楽しみ」「頑張ってもらいたい」

【イベントの企画・運営】

「呼べる仕組み・告知・集客強化」「良いコンテンツが最重要」「ライブ優先がうれしい」

【アクセス・交通】

「九州・関西から来やすい」「駅近」
「交通利便性が良い場所」

【広島らしさ】

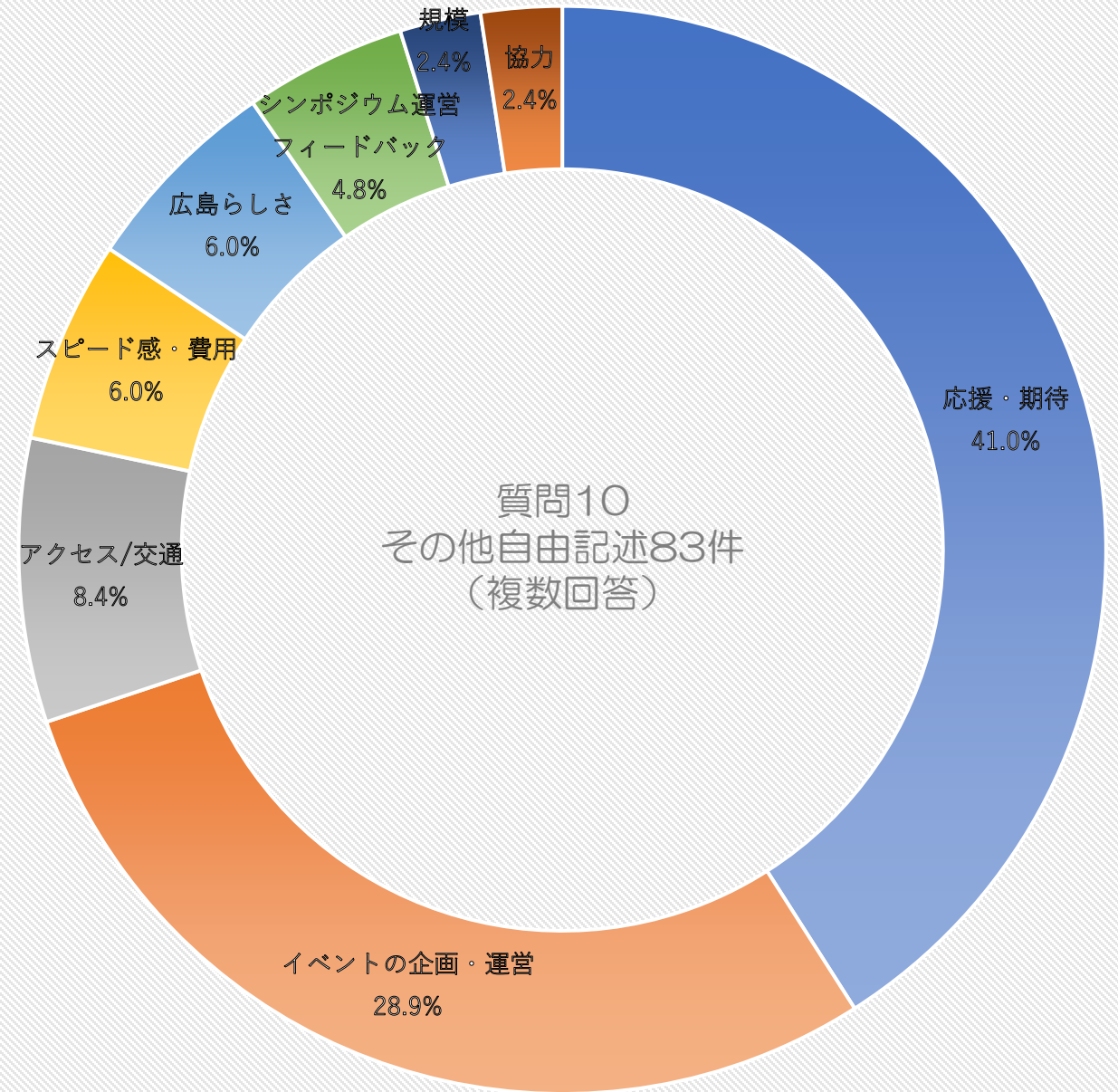
「シンボル性」「広島らしい平和の象徴に」

【スピード感】

「前に進んでいない」「早期に決定してほしい」
「建設・運営の責任主体を明確に」

【協力】

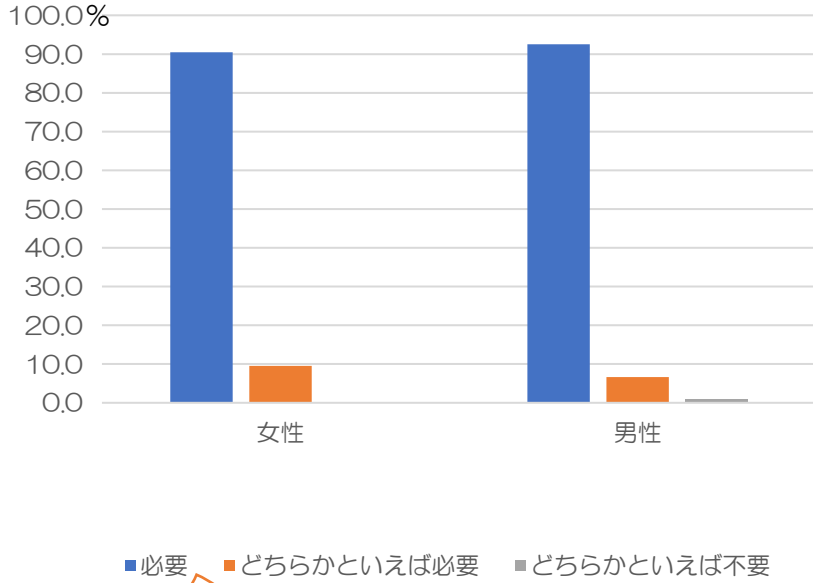
「寄付で協力したい」



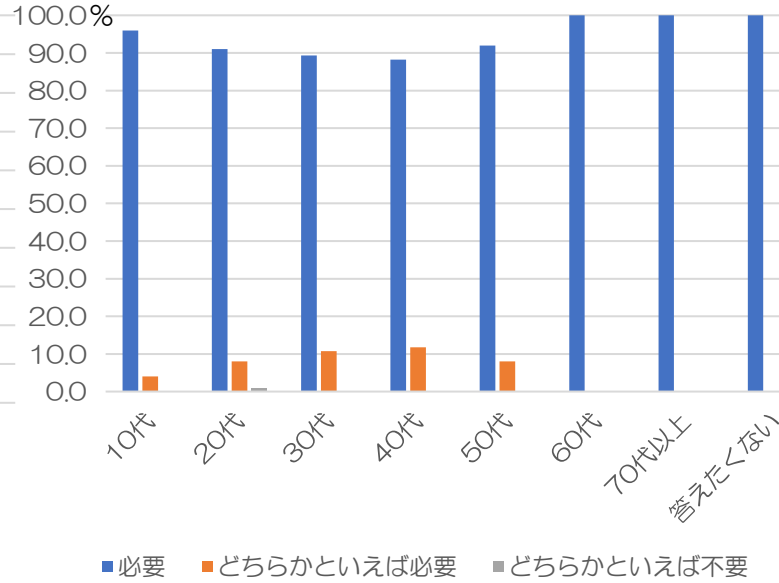
その他意見の自由記述83件（複数回答）では、新アリーナの実現について応援や期待する声が一番多く41%、次いで、イベントの企画・運営、アクセスに関する意見が続いた。その他では、広島らしさを求める意見、寄附で協力したいといった意見もあった。

クロス集計

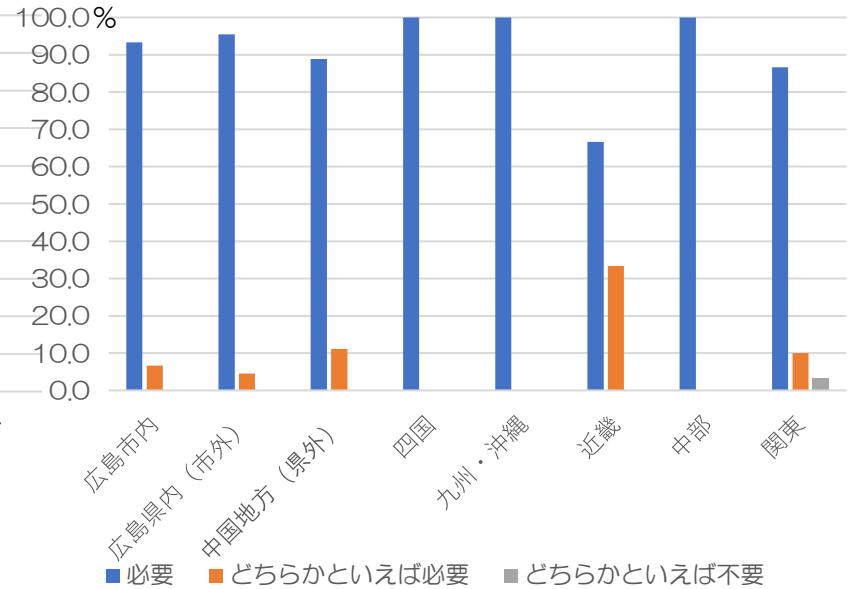
Q1 (性別) × Q8 (新アリーナ必要性)



Q2 (年齢) × Q8 (新アリーナ必要性)



Q3 (居住地) × Q8 (新アリーナ必要性)



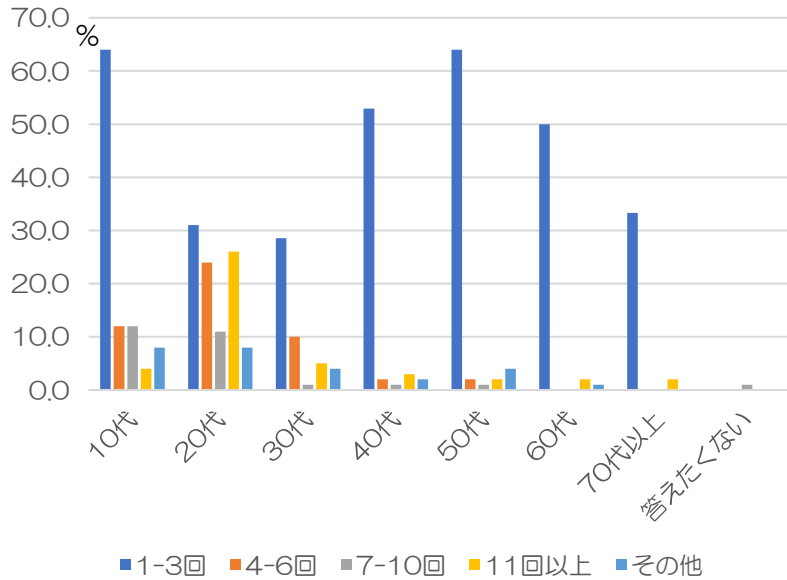
- 「新アリーナは必要」という意見は、男女ともに9割を超え、非常に高い。
- 特に女性は、自由記述でライブに期待する声が多く、また、「女子トイレの増設」「スムーズな退場動線」についての意見も多い。

- 30代、40代では「新アリーナが必要」が9割弱であるが、年代には関係なく、約9割が「新アリーナが必要」との意見であった。
- 新アリーナの整備により、コンサートの広島飛ばしの解消や、エンタメの充実につながるという期待感の表れであると思われる。

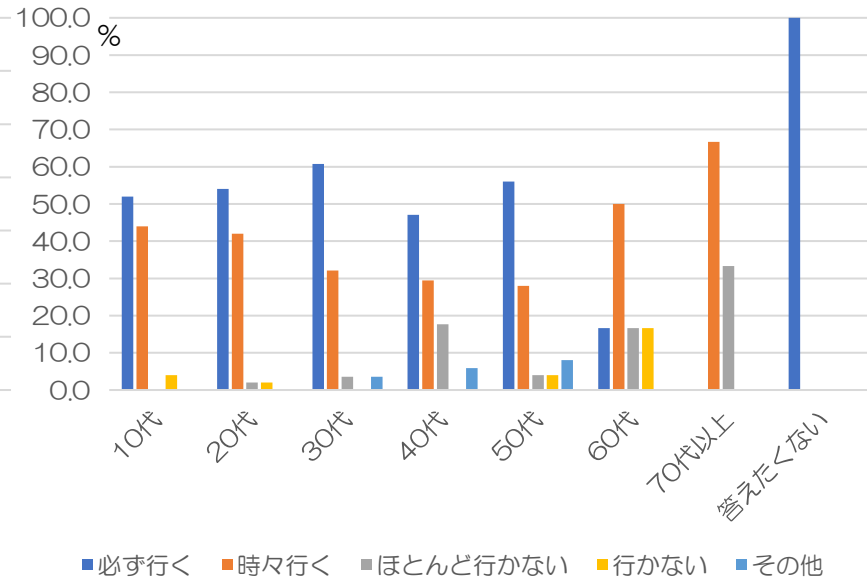
- 広島県内の居住者は9割強が「新アリーナが必要」との意見である。近畿や関東の居住者は「押し」を追いかけて全国を訪れていると推察されるので、広島県内の居住者よりも数値は低くなっているが、それでも「必要」と「どちらかといえば必要」を合わせると9割以上が「新アリーナの必要性」を感じている。

クロス集計

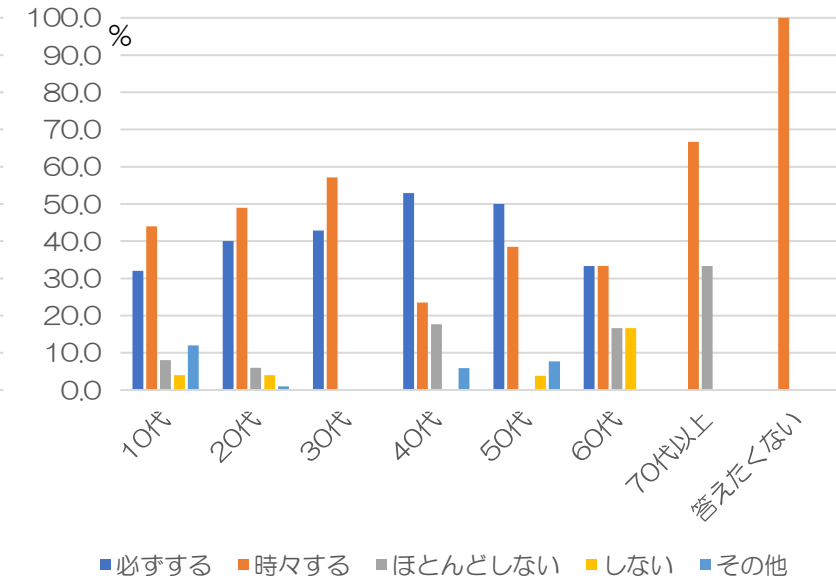
Q2(年齢)×Q5(コンサート参加頻度)



Q2(年齢)×Q6(イベント前後の飲食・買物頻度)



Q2(年齢)×Q7(イベントの際の観光頻度)



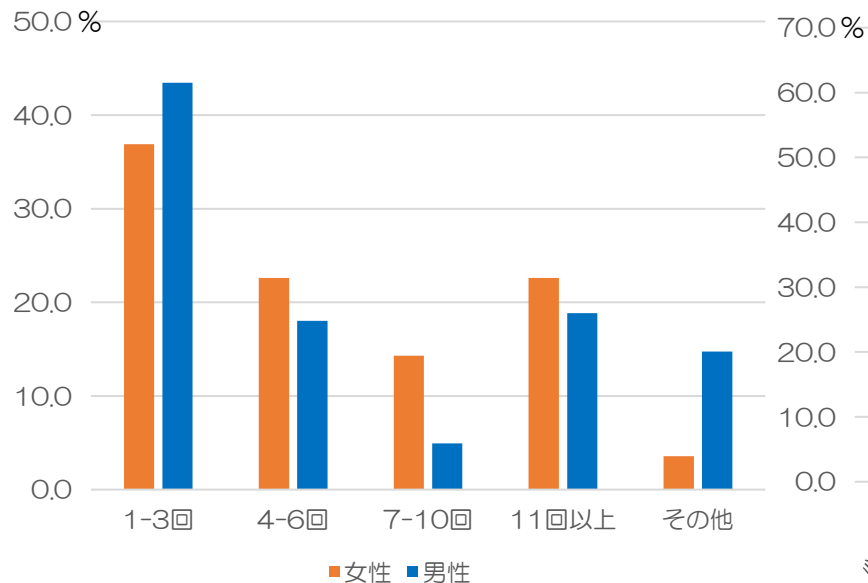
➡ 20代の若者は、他の世代に比べて、コンサートへの参加頻度が高い。また、30代以下と40代以上を比べると、30代以下が参加頻度が高く、他都市へ遠征してライブを楽しんでいると推察される。これは、広島市内に若者のコンサート需要の受け皿となる施設が十分でないことの裏返しであると考えられる。

➡ コン서트・イベント前後の飲食・買物について、30代以下は「必ず行く」「時々行く」で9割を超えているが、40代以上では年齢が増すにつれて、その割合は下がっていくとともに、「ほとんど行かない」の回答も増えている。しかし、全世代でほぼ7割は「必ず行く」「時々行く」であり、新アリーナが整備されることで、広島地域への経済波及効果が期待できる。

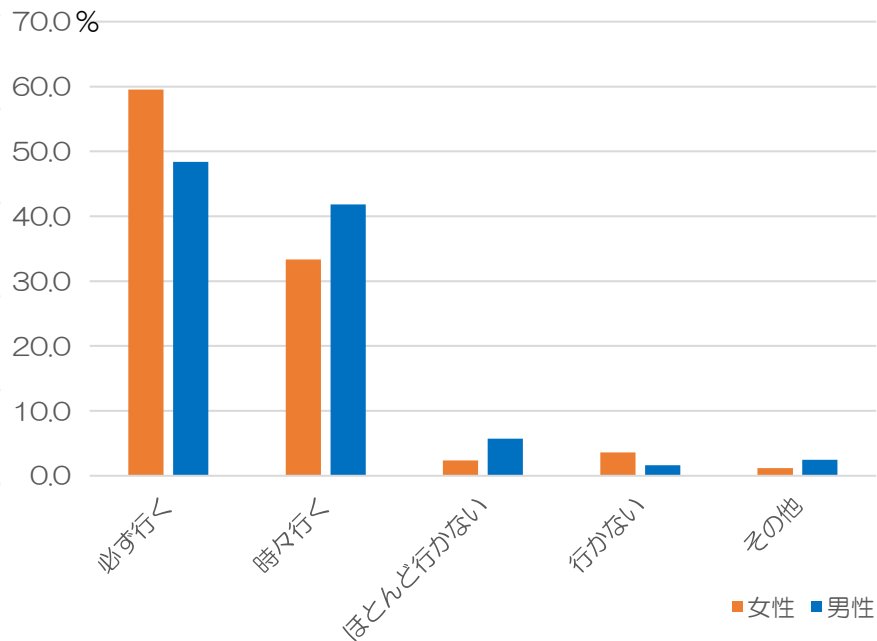
➡ 居住地域外でのコンサート・イベントの際の現地観光について、20代～30代は「必ずする」「時々する」が約9割と高い。また、「必ずする」は40代～50代が5割を超えており、現地での観光消費が多いと思われる一方で、10代は「必ずする」が比較的到低く、自分で使える予算が十分でないためと推察する。しかし、上記同様に、全世代でほぼ7割は「必ず行く」「時々行く」であり、新アリーナが整備されることで広島地域への経済波及効果が期待できる。

クロス集計

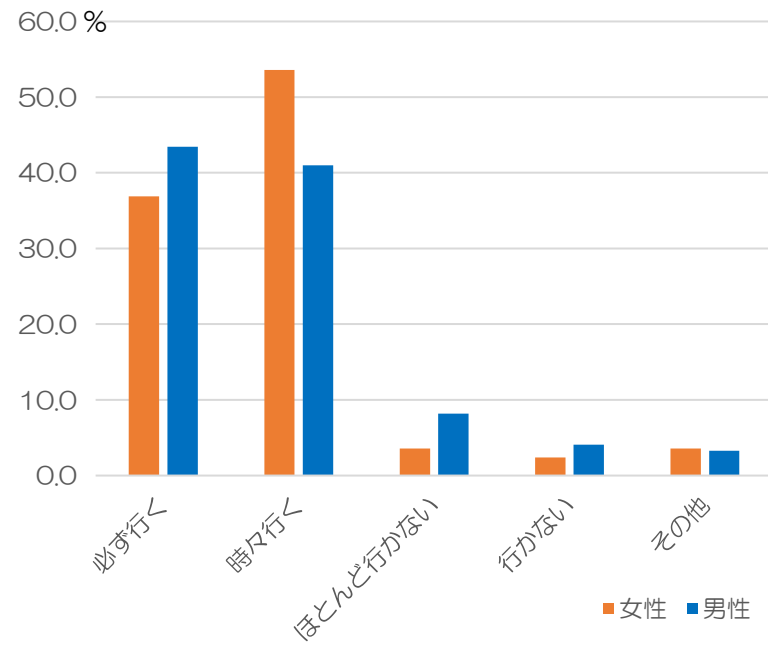
Q1 (性別) × Q5 (コンサート参加頻度)



Q1 (性別) × Q5 (イベント前後の飲食・買物頻度)



Q1 (性別) × Q7 (イベント時の観光頻度)



☞ コンサートの年間の参加頻度については、男女ともに「1~3回」が一番多いが、「11回以上」行く女性が2割を超えるなど、女性の方がコンサートに行く回数が高い傾向にある。

☞ コン서트・イベント前後の飲食・買物について、女性は約6割が「必ず行く」で男性よりも高いが、「必ず行く」「時々行く」を合わせると男女ともに9割を超えている。
☞ 居住地域外でのコンサート・イベントの際の現地観光について、男性は4割強が「必ず行く」で女性よりもやや高いが、「必ず行く」「時々行く」を合わせると男女とも9割程度であるが、女性の方がやや高い。
いずれにしても、新アリーナが整備されることで広島地域への経済波及効果が期待できる。

結果まとめ

- ➡ シンポジウム参加者の全ての属性（性別、年代、居住地）において、コンサートの広島飛ばし解消のために「新アリーナが必要」との意見が圧倒的多数であった。
- ➡ コンサートやイベントの前後に飲食や買物をしたり、居住地域外で開催されるコンサートやイベントに参加する際、現地観光することについては、性別や年代による差は多少あるものの、概して、飲食や買物、現地観光する割合が高いことが分かった。
中国地区コンサートプロモーターズ連絡協議会によると、広島でコンサートが行われる場合、来場者の約6割が県外からの来訪者であることも踏まえると、新アリーナが整備されれば、周辺の飲食店や商業施設、観光産業等への経済波及効果は大きく、広島地域の活性化につながると考えられる。
- ➡ アンケートの自由記述で、新アリーナについて特に意見が多かったのは、「駅から近い交通アクセス」「多目的・スポーツ・ライブ」「見やすさや快適な座席など良好な観戦・鑑賞環境」「1万人以上の収容人員」「音響のよさ」「スムーズな入退場」「広島のシンボル」「待ち時間が少なく快適に使えるトイレ」などであり、これらは具体性があり、シンポジウム参加者による新アリーナへの熱意が伝わる内容である。
また、その他意見の自由記述では、新アリーナへの期待や応援の声が多く寄せられるとともに、アリーナの企画・運営面で、著名なアーティストを招聘する仕組みなどソフト面の工夫の必要性についても意見があった。また、「スピード感を持って取り組んでほしい」「広島らしさを求める」「寄付で協力したい」といった声も寄せられた。

本シンポジウムを主催しました一般社団法人広島イベント事業振興協会では、この結果を、官民で構成する「広島における多機能アリーナ検討を行う勉強会」へ報告いたします。アンケートを回答いただいたシンポジウム参加者の皆様、ご協力いただき、誠にありがとうございました。